

平成30年度行政評価・外部評価結果について

1. 外部評価の目的

市で行った行政評価（内部評価）の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、第5次総合計画を効果的・効率的に推進し、めざす将来都市像の実現を図る。

2. 評価対象及び実施方法

第5次総合計画前期基本計画の全38施策を対象とし、河内長野市行財政評価委員会が評価を行う。

■重点施策（3施策）

行財政評価委員会の会議（令和元年10月15日開催）において評価

※平成30年度は、都市・環境・経済の分野から以下の3施策を対象とする。

施策 No.	施策名称	施策の展開（主に評価対象とする取り組み）
No. 22	循環型社会の構築	・ごみの適正処理と3Rの推進 ・地球温暖化対策の推進
No. 26	住宅環境の充実	・住宅施策の充実 ・安全な住宅環境づくり
No. 33	観光の振興	・地域資源の発掘と活用 ・観光振興のための仕組みづくり ・観光魅力の発信

■その他施策（35施策）

行財政評価委員会の各委員が書面で評価

3. 評価方法

市内部で行った施策評価結果を、以下の視点により評価し、各施策を「**妥当**」、「**概ね妥当**」、「**要検討**」のいずれかに分類する。

【視点1】 住みよさ指標、10年後のめざす姿に対する達成度

- ・施策評価シートの記載内容について妥当性を検討

【視点2】 施策の展開・取り組みの妥当性

- ・施策を推進するために取り組んでいる事業が、施策の目的達成につながるものであるか、実施手法は妥当であるかを検討

4. 評価結果

別紙「平成30年度行政評価・外部評価結果一覧」のとおり

平成30年度行政評価・外部評価結果一覧

No	施策	評価区分	意見・コメント
1	危機管理・ 防災対策の 推進	・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災活動参加者の年度増減は、住民の方が何年に1回程度の参加で良いといった意識や高齢化など、どのような要因が考えられるのか。防災意識は永く持続する必要がある、その工夫が求められると思う。また、自主防災組織が立ち上げにくい地域をどのように他地域が支えているか、気になる。 ・近年、災害が想定以上のものに変化しており、市民の関心も高いと思われる。河内長野の豊かな自然が災いのもとにならないよう、早めの対策が必要と思える。 ・一昨年、昨年の風水害被害を踏まえた災害時の庁内体制、関係団体との連携体制をしっかりと確立し、危機管理体制の充実を図っていただきたい。 ・防災時の放送が大変聞きにくい。 ・防災訓練は、小中学生と一緒にできたらいいなと思う。老人が多い地域での防災訓練は見ているだけの人が多く、災害があっても自ら行動できないと思う。
2	消防・救 急・救助体 制の強化	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	<ul style="list-style-type: none"> ・出火率の減少と救命講習等の受講者数の伸びは評価できる。 ・高齢化の進展に伴い、救急件数が増加してきている。10年後の救急需要の予測に基づく救急体制の整備を検討していただきたい。
3	防犯対策の 推進	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	<ul style="list-style-type: none"> ・住みよさ指標を見ると、成果が出ていると思います。
4	交通安全対 策の推進	・妥当 1 ・概ね妥当 2 ・要検討 2	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者関連事故発生件数を見ると、まだ課題があるように考えられる。各々の事故の事例を検討し、対策を考える必要があるように思う。 ・若年層への啓発活動は実施されているが、近年クローズアップされている高齢者への対応が急がれる。啓発だけでなく、事故がおきそうな危険箇所の点検などの防止の施策も必要かもしれない。
5	消費生活の 安定と向上	・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活の環境が変わってきている中、電子マネーをはじめそのリスクや対応について、学びたい人たちもいるのではないかな。もうすでに対応しているかもしれないが。 ・消費者をとりまく環境が大きく変わっており、施策の策定もスピードが求められ難しいと推察できる。相談窓口をわかりやすく示し、素早い情報収集が必要と思える。
6	地域福祉の 推進	・妥当 0 ・概ね妥当 5 ・要検討 0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの高齢化の中、活動を担う人材の確保に苦心しておられると思うが、今後も大切な施策なので、地域の様々な資源に着目して尽力いただきたいと考える。 ・担い手の高齢化や不足への対応が急がれる。経費の補助だけではなかなか難しく、地域が集うイベントや事業などの工夫があってもいいように思う。 ・評価シートの今後の方向性の文中に「地域福祉活動の担い手育成に努める」とある。このための具体的な施策の展開を示し、取り組んでいただきたい。 ・民生委員の担い手不足について、仕事内容を簡単にしていけないと引き受ける人がいなくなる（夜間・早朝時間に関係なく電話してくる人がいる、緊急時の場合の対処の仕方を徹底する）。

平成30年度行政評価・外部評価結果一覧

No	施策	評価区分	意見・コメント
7	高齢者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 3 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、特養などの施設が認知症対応、多機能化へと向かう中で、地域で暮らしておられる在宅支援の部分を、様々な事業者とどのように創っていくかが求められると思う。 ・老人クラブ数・クラブ員ともに減少傾向にある。シルバー人材センター会員登録者数も計画当初より減少している。これらの項目についても、活性化を図るための施策展開が必要である。 ・老人も元気で働ける仕事を増やしていく（観光と連携して）。
8	障がい者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1の市民満足度は、障がい者当事者の満足度ということでしょうか。今、当事者の声を聴くことが大切な時代となっており、施策の説明が、支援者サイドからの目線になっているように思った。 ・努力が感じられるが、課題にも書かれている通り、他の関連施策との連携が求められる。 ・評価シートの今後の方向性の文中に「課題の解決を図る支援体制などを整備することが求められている。」とあるが、「支援体制などを整備する」と記載すべきではないか。
9	社会保障制度の適正な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「社会保障制度」に関する市民満足度）・4（生活保護の稼働世帯の割合）は、河内長野市の単独の努力で動かせる数値ではないので、変更されたい。指標2（国民健康保険料の収納率）が向上していることを高く評価する。 ・社会保障は国からの事業が多いので、難しい分野だと思いますが、今後とも取り組みながら、実態を国へ届けていただきたいと思います。
10	健康づくりの推進と医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 2 ・要検討 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の受診率低下は大変危険な傾向であり、強力な対策が必要と思う。 ・妊婦健診の受診者数は、対象となる人の何%になっているのか。 ・小学校から食育に対して指導していく必要がある。年配の人より若いの方が、これから病気になりやすいように思う（インスタント食品、ファーストフード、甘いものの食べ過ぎなど）。薬に頼りすぎの人も多い。
11	児童福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい児療育支援者数（累積）が、H30年に「50」の設定が、「104」になっているのはどういった事由からか。個別プログラムによる支援が動き出したということか。 ・近年、関心が高い分野であり、持続的な取り組みが求められる。くらし全般についてワンストップで相談できるような総合的な受け皿が必要なのかもしれない。 ・給食費を持ってこない児童の家に何度ももらいにいった経験がある（払わず卒業した児童もいた）。全員無料になれば取り立てしなくてもいいのだが、教師が回収するには限度がある。対策を考えてほしい。
12	子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「子育てのしやすさ」に関する市民満足度）・2（合計特殊出生率）は入れ換えを検討すべき。 ・母子保健をベースとした子育て全世代・世帯への取り組みは、子どもの福祉の基盤となりますので、ぜひ今後もご尽力いただきたいと思う。 ・数値は下がっているが、取り組みには積極性が感じられる。子育てを強調したエリアの創出と発信など、他分野との連携もあり得るだろう。 ・若い夫婦が選んでくれる町にするため、給食の充実が必要。

平成30年度行政評価・外部評価結果一覧

No	施策	評価区分	意見・コメント
13	学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 0 ・要検討 2 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「小中学校の教育環境」に関する市民満足度）は正しい指標かどうか疑問がある。指標3（不登校児童・生徒数）の数値が改善されないことは、取り組みの抜本見直しが必要。 ・今後も、小中学校が子どもたちの、また地域のプラットフォームになるように、ご尽力いただきたいと思う。 ・コミュニティスクールの取組を推進する際、教師は地域とつながる土・日の出勤が増えるが、手当なし、代休もなしになっていないか。
14	青少年の健全育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「青少年の健全な育成」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・放課後の子どもの居場所と若者支援は、今後の地域づくりを考えると、大事な施策と思えるので、ご尽力いただきたいと思う。
15	生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「各種講座や施設など生涯学習の環境」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・経済的ゆとり・時間・健康・家族に恵まれている階層ばかりが享受する余暇対応になっていないか。総点検が必要である。 ・「生涯学習」は河内長野市のPRできるテーマの一つと思える。今後ご尽力いただきたいと思う。
16	歴史文化遺産の保存・活用及び文化芸術の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 0 ・概ね妥当 4 ・要検討 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「歴史文化遺産の保存・活用」に関する市民満足度）・2（「文化芸術活動などの環境」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・文化財保護・活用政策と文化芸術振興とは、似て非なる部門であり、区分を分けて評価すべきである。観光と絡める場合は、なおさらであろう。 ・「歴史文化遺産・文化芸術」は河内長野市のPRできるテーマの一つと思う。 ・指標の数値は下がっている項目が多いが、河内長野の数多い文化遺産を活用し、広く知ってもらおう努力が必要と思える。 ・「歴史文化遺産の保存・活用」と「文化芸術の振興」は、それぞれ別の政策とすべきではないか。「歴史文化遺産の保存・活用」は「観光の振興」との関連性が高いと思う。 ・観光とも連携して外国からのお客様にも楽しんでもらえるような工夫をしてほしい。英語、中国語、韓国語などで説明できる人材を育成していく必要がある。

平成30年度行政評価・外部評価結果一覧

No	施策	評価区分	意見・コメント
17	生涯スポーツ活動の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 0 ・概ね妥当 4 ・要検討 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「スポーツ施設や活動などの環境」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・健康に恵まれた者ばかりではなく、健康弱者を対象とした施策開発に乏しい。 ・私も60歳を超えて「スポーツ」というよりは、「健康運動」というイメージになってきた。肩に力を入れない運動を少ししてみたいという人もいるように思う。 ・市民が求めるレクリエーションやスポーツの質の変化があると思える。施設よりも、マラソン大会など、イベントの充実の方がニーズがあるのではないか。 ・評価シートの課題及び今後の方向性のなかで、スポーツ施設の有料化は、遠くからくる施設利用者の利便性の向上につながるものではない。「施策No.38 健全な財政運営の推進」の項で取り上げるべきではないか。 ・近くの公園でゲートボールをされていた老人たちが車を置く場所がなく、公園内に入れていたことで、町内から苦情が出て撤退された。町内の老人会は活動できず休会で、子ども会も人がいなくて休会になっている。公園の活用は災害訓練と犬の散歩ぐらいになっている。
18	人権と平和の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 3 ・要検討 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「人権の尊重と平和意識の高揚」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・全人口に対する人数、平和事業への参加者が少なすぎる。また、関連指標1（人権・平和意識啓発事業への参加者数）には意味があるのだろうか（住みよさ指標の合計にすぎない）。 ・人権・平和といった抽象的な言葉を、学生たちにどのように身近なものとして伝えられるか（感性をもってもらうこと）、いつも悩む。 ・人権や平和といっても抽象的なので、身近なこととして捉える仕掛けが必要と思える。
19	男女共同参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 2 ・要検討 2 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「男女共同参画の推進」に関する市民満足度）に疑問があり、入れ替えを検討すべき。 ・男女共同参画施策の停滞が明確である。抜本的な取組の見直しが必要である。 ・ワークライフバランスは、必要性が叫ばれてから随分と経つが、まだまだと思う。女性の社会参画も、どんどんとしかけていっていただきたいと思う。 ・かなり共同参画意識が高まってきたとはいえ、一朝一夕で進むものでもないと思える。審議会の構成だけでなく、市職員や議員の構成比等も気になる。仕事面だけでなく、生涯教育や地域活動での共同参画も必要と思える。
20	多文化共生と国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「国際交流や多文化共生社会の推進」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・国内における地域のグローバル化が他市でも見られる状況である。今後ますますご尽力いただきたいと思います。 ・NO.18の施策との連携なども考えられる。 ・外国人の方にも観光に関するアイデアをいただけたらいいのでは。食事や民泊、観光ルート、体験、伝統行事参加など。

平成30年度行政評価・外部評価結果一覧

No	施策	評価区分	意見・コメント
21	自然環境の 保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「自然環境への配慮」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・他市でも取り組んでいるところがあるが、「親子のふれあい自然学習会」はどこも良く集まっておられるようなので、今後も充実していただきたいと思う。 ・豊かな自然環境を生かした、観光客の誘致等、その活用の施策が展開されていない。
22	循環型社会 の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 ※委員の総意 	<p>※別紙会議録のとおり</p> <p>（追加意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル率が下がっているが、そもそも、リサイクルしなくてはいけない容器類やプラスチック素材を減らすことも大事と思える。竹や間伐材等の利活用への取り組みは、河内長野の地勢を考えると、地域の特色が出せると推察できる。
23	快適な生活 環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 4 ・概ね妥当 0 ・要検討 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の施策に比べて高評価なので、指標の達成率は確保できているが、事業No.1（合併浄化槽設置費用の補助）の結果、何%が改善したのか、事業No.3（南河内広域公害対策事業）の立入検査の結果どうだったか、事業No.4（埋立指導事業）でマニュアルを制定され、それを今後どう活用されるか、もう一步踏み込んだ評価結果を知りたい。
24	魅力的な景 観の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 0 ・概ね妥当 2 ・要検討 3 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・市民満足度の低下要因の社会情勢の変化とは、具体的にどのようなものなのか。 ・「市民との協働」には何らかの働きかけがないと始まらないと思える。まちあるきやワークショップなどを実施し、まずは「景観」への関心を掘りおこすことなどが考えられる。生涯教育や観光などの分野との連携も考えられる。 ・単独の政策項目としてではなく、「環境」や「文化財」部門の政策に分けたらどうか。 ・河内長野を多くの人に来てもらうためには町全体をどのような景観にしていっていいのか、地域だけの取組だけでなく考えていく必要があるのではないか。
25	市街地整備 の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「市街地の整備」に関する市民満足度）を入れ替えるべき。 ・市街地整備は、一朝一夕ではできない難しい課題と思えるが、今後ご尽力頂きたいと思う。 ・長期的な取り組みが必要で、なかなか目に見える変化が表れにくい分野と思える。整備を着々と進めると同時に、イベントやワークショップを開くなどして市民に関心を持ってもらう試みも必要かもしれない。 ・市街地整備事業は、長期目標を設定し、長い目をもって進めてほしい。 ・にぎわいプラ座の施設を、もっと充実した施設にしてほしい（椅子、机、壁、電気、床）。駅近くで便利だが、暗いイメージしかない。商店街も観光の一つに変身していく必要がある。 ・観光客を迎える駅前整備は最重要課題である（人が集まる、人が楽しめる、交流の場）。

平成30年度行政評価・外部評価結果一覧

No	施策	評価区分	意見・コメント
26	住宅環境の充実	・概ね妥当 ※委員の総意	※別紙会議録のとおり (追加意見) ・住む場所の選択は、住宅の良し悪しだけでは決まらない。子育て支援や高齢者への支援、都市インフラの整備等との連携が必要と思える。 ・河内長野からは鉄道を使えば大阪中心部にもそう時間はかからないが、自然も豊かである。住む場所としての魅力のPRの工夫も大事だろう。
27	公園・緑地の整備	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・指標に、公園の利活用人口を使うべきではないか。 ・公園という公共財を住民の方々とともに考えていくことは大切と思う。長寿命化計画の策定に市民の方々が参画されたのか。今後この計画は、どのような組織で推進されるのか。興味がある。
28	道路基盤の整備	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・指標1（「道路や橋などの交通網」に関する市民満足度）は「市の道路や…」と「市」に特定すべきではないか。 ・道路は大切な社会インフラですので、今後ご尽力いただくようお願いする。
29	公共交通の充実	・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0	・指標1（「バスなどの公共交通サービス」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・今後、移動手段の革命のようなものが起こる中、機動力があり利便性の高い交通手段をどう確保していくか、それを住民の方とどう共有していくかが問われていると思う。 ・公共交通の充実、地域で協働する社会を作るには不可欠と思える。利用者が多くなくても、ある程度の本数があるからこそ公共交通と言えるので、工夫して効果的な運用が望まれる。
30	上下水道の整備	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・上下水道は、当たり前すぎて、私たちの意識にのぼらないことも多いが、市として、市民も交えてビジョンを策定されたのは、素晴らしい取組だと思う。今後、これらをいかに多くの市民の方々に知っていただくか、ご尽力いただきたいと思います。 ・避難所のマンホールトイレの整備を危機管理課と共同で進めていただきたいと思います。
31	商工業の振興	・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0	・指標が最終アウトカムに偏っている。支援策等の中間アウトプットも必要と考える。 ・廃業による技術の消滅も言われていますが、人材確保・育成、6次産業化、コミュニティビジネスの創設など、多面的な視点から、今後ご尽力いただきたいと思います。 ・商業はあまり数値がよくないが、製造に関してはほぼ横ばいと思える。買物の仕方が変わり、行動範囲も広がっている今日では、「商業地の賑わい」はなかなか難しいのかもしれない。 ・人材確保のための外国人雇用に関しては、施策No.20「多文化共生と国際交流の推進」に関する事業と連携して取り組んでいただきたいと思います。 ・観光との連携で河内長野の特産品開発、起業などを考えていく必要がある。

平成30年度行政評価・外部評価結果一覧

No	施策	評価区分	意見・コメント
32	農林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「農林業の振興」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・指標が最終アウトカムに偏っている。支援策等の中間アウトプットも必要と考える。 ・今後も、河内長野市の魅力の一つである農林の資源を大事に育て活用していただきたいと思います。 ・指標はそう悪くないが、将来を考えると、世代交代や新規参入者を増やす施策が必要ではないか。 ・農地や森林を活用した河内長野の特産品（例：つまようじ）を広くPRするほか、新たな特産品の開発を進めていただきたい。 ・道の駅の近くに、雨でも食事ができる少し広めの場所があればいいと思う。
33	観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね妥当 ※委員の総意 	<p>※別紙会議録のとおり</p> <p>(追加意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光事業と住民（市民）の満足度は比例しないことも多い。市民が誇りが持て、観光客も満足できる観光を目指すことが必要である。楠木正成は、そう華やかな存在ではないが、文化的な遺産と豊かな自然の両面の魅力を伝えることが重要と思える。ピーク期だけでも公共交通で寺院等観光地を回遊できるとアピールになると思える（観光ループバスなど）。
34	雇用の確保と就労・労働環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 4 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎自治体としての施策能力には限界があるが、それでも、支援策等のアウトプット件数を増やしてほしい。 ・子どもの貧困の問題、ひとり親家庭の親の就労支援など、また今後65歳以上の高齢者の就労などにもご尽力いただきたいと思います。 ・市域だけで解決する課題ではないが、粘り強い努力が必要と思える。観光振興や男女共同参画などの施策との連携も考えられる。 ・観光客が増えれば、多くの方が働くことができるのではないかと。
35	都市ブランドの構築と魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「河内長野市に愛着と誇りを感じている」市民の割合）・2（「河内長野市に住み続けたいと感じている」市民の割合）は、ここでは有効である。 ・シティプロモーションは、総合戦略化しなければ機能しないが、それが見えにくい。 ・まだまだ課題はあると思いますが、先駆的に取り組んでおられると思います。 ・観光入込客数をもっと増加させていく必要がある。
36	協働の推進と地域コミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 1 ・概ね妥当 3 ・要検討 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティにおける住民自治と団体自治の役割分担を、全政策において明確化した行政評価体系に組み替えられたい。このままでは、協働もコミュニティ施策もタテワリの施策と誤解される。 ・今後も重要な施策ですので、ご尽力いただきたいと思います。 ・指標は下がり気味だが、粘り強い取り組みが求められる。「地域コミュニティ」に求めるものが、時代とともに変化しているのかもしれない。
37	効果的・効率的な行政運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 2 ・要検討 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の指標をすべて見直しされるよう願います。 ・これから河内長野全体を見通した計画に基づき行動して、確認しながら、横のつながりで仕事をしていくことが多くなると思う。
38	健全な財政運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1（「適正で透明性の高い財政運営」に関する市民満足度）は指標として適切か疑問である。 ・指標に、財政再生基準の4指標を出すことを望みます。

令和元年第1回行財政評価委員会・会議録

日時 令和元年10月15日（火）午後2時～4時

場所 市役所3階 301会議室

出席者 河内長野市行財政評価委員会 4名（欠席：橋寺委員）

事務局 小林総合政策部長、谷ノ上政策企画課長、及び政策企画課職員
事業担当部（課） 環境経済部（環境政策課、環境衛生課、産業観光課）
都市づくり部（都市計画課）

傍聴者 なし

案件1. 委員長、副委員長の選出について

委員長に中川委員を、委員長がかけたときに職務の代理を行う副委員長に農野委員を選任する。

案件2. 第5次総合計画の各施策に対する外部評価

○施策 No. 22 循環型社会の構築

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：非常によくやっておられるという印象である。住みよさ指標として市民満足度を設定されているが、その前段として、どれだけの方がこれらの事業を認知されているかが重要である。様々な団体が関わられるなかで、各団体がどのように周知しているのか。特にふれあい収集がどのようにつくられたのか。市民の声であればいいなと思った。

担当課：ふれあい収集について、本市はステーション方式により回収を行っているが、要介護2以上の方で、ゴミ出しが困難な世帯については、申し出いただければ、収集日に玄関先まで回収を行っている。高齢化が進むなか、市民からのご意見があり、実施している。

委員：評価の対象としては、ペットボトルの回収など民間事業者が行われている取り組みはあがってこないと思うが、市全体ではそのような取り組みも含め、市民満足度は高まってくるのではないかと思うので、そのような効果も合わせて考えてほしい。

担当課：民間事業者が独自に行っておられる取り組みについて、費用を負担いただいているなか、無理を言えない部分もあるが、協力的な事業者もいるので、連携して取り組んでいきたい。

委員：ふれあい収集の広報はどのように行っているのか。認知が広がれば、対象者が増えてくると思われるので、その対応もしっかりと考えておかないといけない。

担当課：市の広報やHPで周知を行っている。また、「長寿ふれ愛ガイドブック」にも掲載しているほか、障がい者の方に向けては、「福祉のしおり」に記載しているが、まだまだ行き届かない部分もあると思う。

委員：一市民の印象として、「もったいない市」は、使わなくなったものをうまく利用しており、とてもよい取り組みだと思う。

委員：ゴミの回収については、河内長野市は大阪府内で率先して分別収集を実施されるなど、優れた

取り組みを進められていると思う。今後は、自然エネルギーの活用についての方策をどうするのか、視察なども行われていると思うが、河内長野市は間伐材が多く出るため、うまく活用できればよいと思う。

担当課：太陽光エネルギーについて、市では、平成28年より7か所で太陽光パネルを設置し、収入を得ている。ただし、新たに設置しても買い取り価格が下がっているため、やるのであれば別の方法を考えていかないといけないと思う。バイオマスについては、竹を粉碎したものを肥料として使用できないか、検討を進めている。実際にはかなりの手間暇がかかり、どう大量生産につなげていくかが課題となっている。間伐材については、活用方策を他部署とも連携しながら検討していきたい。

委員：住みよさ指標の3（市民1人1日あたりのごみの排出量）、5（市施設のエネルギー使用量）について、災害により災害ゴミが増えるなどの影響により、目標値を達成できていないとのことだが、災害の影響は分けて考えた方がいいのではないかと。突発的なものについては除かれて評価された方がよいと思う。評価としては「**妥当**」でよいのではないかと。

委員長：私の意見も概ね他の委員と同じである。一点、処理業者については入札で契約しているのか。

担当課：ゴミの収集は2社と随意契約しており、資源ごみの処理については、3社の見積もり合わせて選定をしている。

委員長：世間はよく見ているので、随意契約であっても公平性が担保されるように注意してほしい。委員会の評価としては「**妥当**」とする。

○施策 No. 33 観光の振興

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：観光案内所の案内種別で、「観光行事・イベント」が前年度と比較し平成30年度は倍ほどの数字となっているが、新たなイベントを実施したからという理解でいいか。

担当課：市外に向けては、市もそうだが、民間事業者もデジタルサイネージを活用して、秋の特別公開などのプロモーションを行っている。その効果もあったのかと思う。

委員：観光ボランティア数の数値目標が当初値から減っているのはなぜか。

担当課：観光ボランティアについて高齢化による退会などから、平成27年度の数値からは減少している。日本遺産の認定を契機にボランティアの育成にも取り組んでおり、今後増やしていきたいと思う。

委員：評価としては、「**概ね妥当**」だと思う。今後、どういうところを伸ばしていくのか、のびしろがどこにあるのかと考えると難しい。リピーターがどれくらい来ているのかも気になる。

委員：商工会女性部で来月ウォークラリーを企画している。企画するなかで感じたが、河内長野市では、いいところがたくさんあるが、歩いて回るにはあまりに遠すぎるため、ルート設定が非常に難しい。食べる場所についても、大人数で利用でき、屋根があるところとなると難しい。河内長野駅前の商店街がいろいろ催しをされているが、周りに食べる場所が少ないのが事実。酒蔵などよいところもあるが、そこでプチンと途切れてしまう。うまくお客さんが市内を回れ

る仕組みを作ってもらえれば良いと思う。

委員：一所懸命、いい仕事をされていると思う。テクルートの管理状況はどうか。

担当課：100kmあるので、難しい部分はある。案内看板は200か所ぐらいにあり、どうしても壊れてしまう。清掃等の委託業務のなかで見つければ連絡してもらい、適宜対応している。

委員長：各地の観光施策をみていると、観光協会の位置付けは計画のなかでどうなっているのか、観光協会が何をを行い、行政は何を支援するのか、しっかり役割分担ができてきているのかとを感じる。弱小の観光事業者は行政におんぶに抱っこになってしまう。観光入込客数は増えているが、インバウンドの影響で増えているのであって、自助努力で増えたとは思えない。観光基本計画のなかでしっかりと役割が描かれていれば良いが、事業者が独自に取り組みを進めていけるよう、この分野においても団体自治と住民自治の仕分けが必要と思う。

委員長：評価としては「概ね妥当」というところでよろしいか。

各委員：(異論なし)

○施策 No. 26 住宅環境の充実

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：親子近居同居促進マイホーム取得補助制度が終了するとのことで、来年度がどうなるのか気になる。子どもが育つ環境として、近居同居はよいことだと思うので、何か方法を考えていただきたい。市営住宅のあり方も気になる。住まれている方が高齢化するなかで、市営住宅という枠組みで対応できるのかどうか。

委員：近所に若い夫婦がおらず、若い人がたくさん入ってきてほしいと思っている。老人の一人暮らしなど、不安ななかで暮らしている人も多いと思う。空家については、木が道に出ているところもあり、だれが管理するのかしっかりとした対策が必要である。空家をうまく活躍できないかと思うので、取り組みを引き続き検討してほしい。

委員：最近では、空家となっていたところに、新しい人が住まれるケースもあり、空家対策の取り組みの効果が少しずつできてきているのではないか。空家に係る不動産の相談会を開催され、件数があがってきているというのも、一つの成果であると思う。

委員：小山田の市営住宅跡地の活用について、何か計画されているのか。

担当課：現状は、進入路が借地になっており、まずは、その部分を現状復帰し、返却する。これが終われば、境界も確定できるので、有効な活用に向け、協議していきたいと思う。

委員：適正な跡地活用を進めてもらいたいと思う。

委員長：この施策だけでなく、総合計画の各施策の住みよさ指標に設定されているが、市民満足度は、どれだけ正確に施策の効果を反映できているのか。世相に影響される部分も大きい。数値のブレが大きく、安定的に評価できるのか。科学的信頼度について検証してほしい。関連指標に「耐震性のない建物が除却された件数」があるが、これだけを切り取られると担当者としてはきつい。耐震化が必要な母数に対し、どれだけ耐震相談があり、耐震化がどれだけできたかという指標があるべきでは。

委員長：評価としては、「概ね妥当」でいいのではないかな。

各委員：(異論なし)

委員長：各指標の数値が悪いため自己評価を「D」とされているのかと思うが、『住環境』に関する満足度、「社会動態の転入者／転出者の率」は、行政の努力だけではどうにもならない部分もある。評価としては「C」から「B⁺ (ダッシュ)」ぐらいでよいのではないかな。よくやっておられると思う。

委員：そもそも日本の住宅政策は、個人で家を持ちなさいということを前提としており、公営住宅などリースの環境はしっかりと出来上がっていない。民間が私的に持っているものを充実させていくのはかなり難しいと思う。

委員：河内長野市はホテルが少ない。泊まるところが欲しいという意見もある。

委員長：大阪府内をまわっていると、河内長野市の評価はあがっている。便利さ指標や犯罪指標、学歴指標、文化度などの指標と土地の価格を掛け合わせて、住宅施策、観光施策、文化施策を展開していけばいい。総合力で戦う時代であると思う。政令市や中核市と違い横のつながりができるのが、10万人都市のいいところである。

案件3. その他

事務局：総合計画の各施策に対する外部評価について、ここ3年は、それぞれ「総務」、「福祉・教育」、「都市環境経済」の分野から重点施策を選択し、会議の場で審議いただいていた。総合計画は、平成28年度から令和2年度が前期、令和3年度から令和7年度が後期計画と位置づけており、来年度は前期計画の最終年度であり、後期計画の策定が必要となる。そのため、来年度については、前期計画の総括として全38施策の評価をお願いしたいと考えている。具体的な手法については、来年2月頃の開催を予定している第2回会議の場でご議論いただきたいと思う。何かこの場で意見があれば、お願いしたい。

委員長：何か各委員から意見はあるか。

各委員：(特になし)

事務局：本日の会議でのご意見、また書面で評価いただく他の35施策に対するご意見については、市ホームページ等での公表を予定している。評価結果のとりまとめ、公表方法については、事務局に一任いただいてよろしいか。

委員長：事務局に一任する。